

進捗報告書

報告者氏名：鈴木秀樹（佐藤牧子）

所属：東京学芸大学附属小金井小学校

貸与機器（使用機器）：iPad mini, モバイルWi-Fiルーター

【対象児の情報】

- ・ 学齢 小学校2年生
- ・ 障害と困難の内容 複数回答可（複数回答の場合には主たる障がいは◎をとってください）
 - 知的障がい
 - 知的障がいを伴う自閉症
 - 高機能自閉症
 - 自閉症スペクトラム症
 - アスペルガー症候群、
 - 読み書き障がい（ディスレクシア、ディスグラフィア）
 - 注意欠損多動性障がい（AD/HD）
 - 肢体不自由
 - 重度重複障がい
 - 聴覚障がい
 - 構音障がい
 - 視覚障がい
 - 記憶障がい
 - 病弱
 - その他（ 感覚過敏、ギフテッド ）

【実践研究活動の進捗】

- ・ 実施期間 令和5年5月～7月
- ・ 実施者 佐藤牧子
- ・ 実施者と対象児の関係 養護教諭

対象としていた児童は、フリースクールやオンライン授業の活用により、一時的に学校内での直接的な支援を中断することとなった。そのため対象児童を変更し、実践を行った。

1. 音声入力機能を用いて、自分の考えや伝えたいことを整理する。
2. 自分の生活環境を見直し、視覚的資料を用いながら自分が実現したい「好き」を見つけ、保護者や支援者と共有する。

【実践研究活動の内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

幼少期より感覚の過敏さ（特に人混み、臭い、音）があり、集団行動に困難を抱えていた。また、注意の向け方が分からず、聞き逃しや行動の切り替えが苦手であった。そのため行動の遅れ、それに伴う周囲からの指摘があり、不安が顕著であった。小学校入学後も同じような様子があり、自信を失っていた。登校渋りがみられ、保護者からの登校刺激に不安が募り、一時期登校できなくなった。その後、保健室登校や適応指導教室を利用し、遊びやコミュニケーションを介したかわりから支援を開始した。

・活動の具体的内容（以下、保健室登校時に養護教諭と実践した）

- ① 自分の考えや意見を伝える最中に途中で忘れていたり、他のことに気がそれたりするため、伝えたいことをメモする方法を検討した。話していると内容を忘れやすいため、デジタルノート（OneNote）のディクテーション機能を用いて、テキスト化する支援を行った。またプレゼンテーションアプリで、自分の考えを音声で記録し、動画でクラスの仲間に共有することができるようになった。
- ② 学校生活に不安が強く、自分のペースで生活する見通しがもてないため、安心できる生活の見直しをした。マインドマップで自分と周囲との関わりを整理した。その上で理想の生活をテーマにどういった生活を送りたいのかを Minecraft Education で作成しながら、保護者や支援者と共有する試みをした（作成途中）。

・対象児の事後の変化

- ① 自分が伝えたいことを音声入力で話してから、整理し、教員とのチャットやテキストを見ながら、自分の意見などを相手に伝えることが増えた。また Minecraft Education Edition で、自分の理想の生活環境を作成しながら、実生活をどのように改善したいのか、言語化できるようになった。実際に自分の好きな読書の時間を生活に取り入れ、読書をきっかけに元素に興味を持ち、自分から調べる、まとめるなどの姿が出てきた。



【今後の見通し】

・ここまで得られた成果と考察

- ① 対象児童の考えや思いについてアウトプットしやすい方法を模索し、実生活で活用できるようになってきた。
- ② 自分の「好き」なことをきっかけに調べ学習をするようになり、算数や漢字の学習につながってきた。書字の苦手さも見られたため、自分が使いやすいツールを用いて学習するようになった。

今後の展望

- ① テキスト化された自分の考えや感情をデジタルノート以外のツールを用いて、引き出しを増やすことができるようにする。支援には生成AIを教員が用いて、自分の考えにない視点などから、気づきが広げられるようにする。
- ② コミュニケーションへの支援として、オンラインでのコミュニケーション（チャットやオンライン会議）を用いて、他の児童とのかかわりを段階的に増やす。